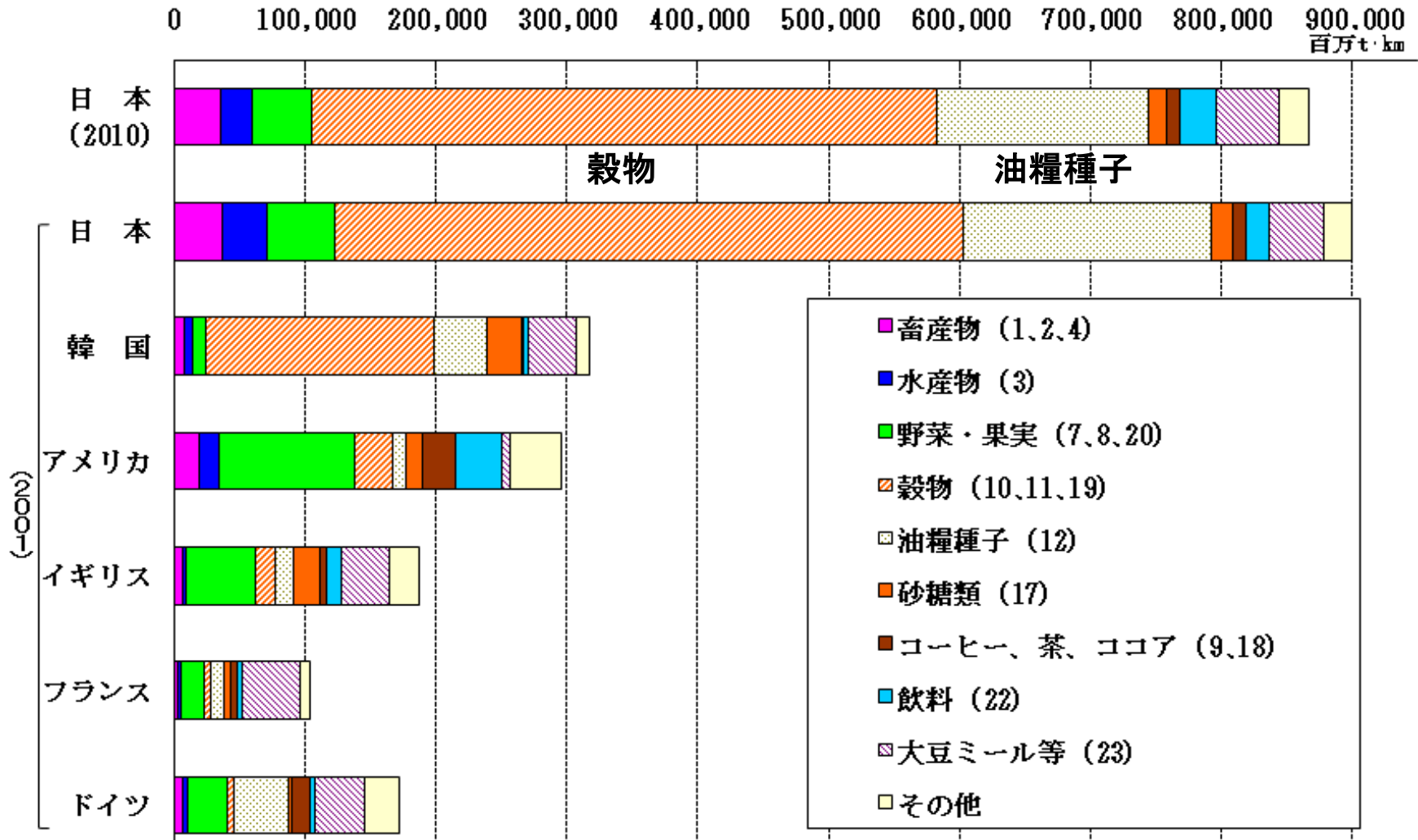


輸入食料のフード・マイルージ : Σ (輸入量 × 輸送距離)



輸入食料の大量・長距離輸送により排出される二酸化炭素の量 : **16.9 百万t**

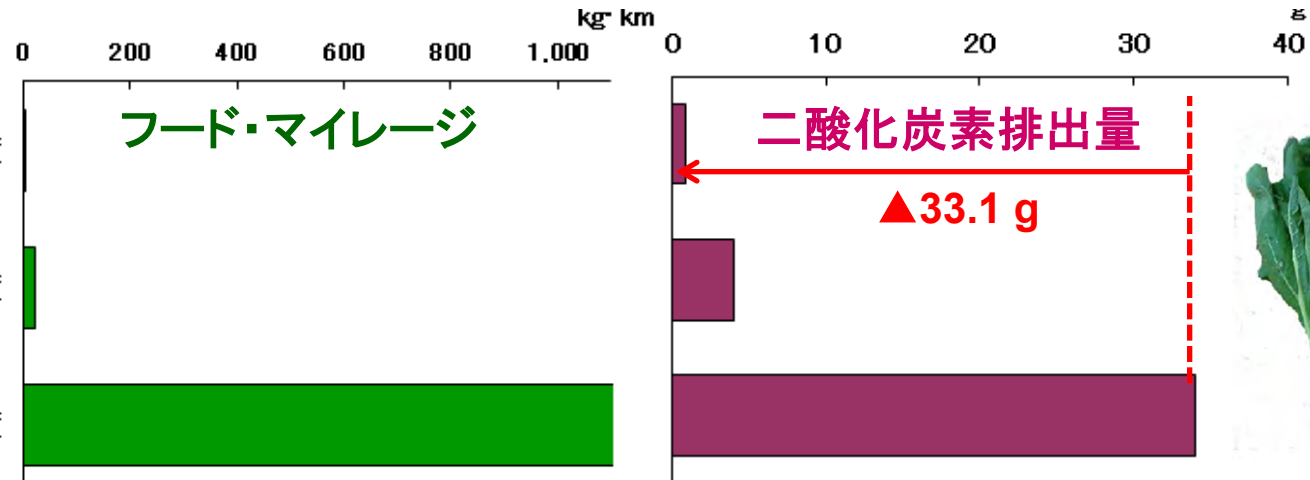
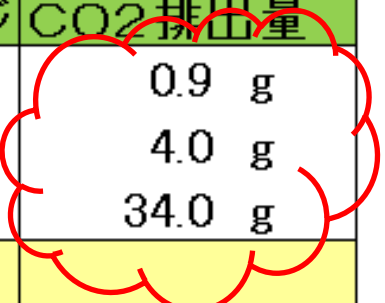
一世帯当たり年間 : **約380 kg**

①

cf. 冷房を1°C高く暖房を1°C低く設定 : 約33kg、1日1時間テレビ利用を減らす : 約14kg/年

地産地消の効果 (小松菜500gのフード・マイルージ等)

	輸送距離	フード・マイルージ	CO2排出量
[ケース1]江戸川区産	9.7 km	4.9 kg・km	0.9 g
[ケース2]埼玉県産	44.7 km	22.4 kg・km	4.0 g
[ケース3]中国産	2,257.5 km	1,128.8 kg・km	34.0 g
(倍率: 地産地消=1)			
[ケース1]江戸川区産	1 (倍)	1 (倍)	1 (倍)
[ケース2]埼玉県産	5 (倍)	5 (倍)	5 (倍)
[ケース3]中国産	233 (倍)	233 (倍)	39 (倍)



地産地消で二酸化炭素排出量を **約33g削減** cf.テレビを1時間短く : ▲38g

フード・マイルージの限界

- ① 輸送機関による違い:トラックは外航船舶の約20倍→モーダルシフトの必要性
- ② 輸送に限定された指標→カーボンフットプリント(LCA)の重要性

世界の潮流

○ フードマイルズ運動 イギリス

「BUY LOCAL」運動等が拡がり。

○ スローフード運動 イタリア

- (1) 伝統的な食材や料理、質の良い食品等を守る
- (2) 質の良い素材を提供する小規模な生産者を守る
- (3) 子どもを含め消費者に味の教育を進める

○ CSA (Community Supported Agriculture: 地域支援農業) アメリカ

家族農業支援、農村環境の保全等のため、消費者が作付け前に契約し代金を前払い。日本の「産消提携」がモデル

○ LOHAS (Lifestyle of Health and Sustainability: ロハス) アメリカ

健康や環境に配慮し、持続可能な社会を志向するライフスタイル

○ LOCAVORE (ロカボア) アメリカ・カナダ

local (地元) + vore (~を食べる者)、「地元で取れたものを食べる者」という意味の造語

○ 映画「幸せの経済学」 グローバリゼーションからローカリゼーションへ

○ 「身土不二」(しんどふじ) 韓国

「地元の旬の食品や伝統食は身体に良く、体と土は一体」、国産品を優先的購入

○ 地産地消、フード・マイレージ、伝統野菜の取組 日本

cf. 食事という社会的行為が消滅した時、人間の社会性も危機に直面(山際寿一、2003)

「食」は意識を変えるという意味では一番大きな可能性(松井孝典、2003)

スローフード運動等は共同体自治の手掛かりに(宮台真司、2011)



アメリカ・カンザス州のスーパー
(写真:高橋優子さん)



江戸東京野菜通信

大竹道茂の伝統野菜に関する情報ブログ

江戸東京・伝統野菜研究会 大竹道茂氏 <http://edoyasai.sblo.jp/>

練馬大根引っこ抜き大会



早稲田ミョウガ搜索隊



「日本橋まつり」



押上よしかつ（墨田区業平）

江戸東京野菜でまちづくり（小金井市） 「マルダイ大塚好雄商店（北品川）」

参考：江戸東京野菜普及推進連絡協議会 <http://www.edotokyo-yasai.com/>